

# 令和6年(2024年)度 事業計画

公益財団法人 森下仁丹奨学会

## 令和6年(2024年)度事業計画

### I 方針

我が国経済は、ウイズコロナからコロナ禍後へ移行する中で、個人消費の持ち直しや好調な企業業績の下、内需は緩やかに持ち直してきています。一方消費者物価の上昇は実質賃金の下押し要因となり、家計への圧迫度合いは継続しています。

そのような中で、学生の方々の就学状況は、通常の日常を取り戻しつつありますが、実質的な費用負担は増えています。コロナ禍前と比べアルバイト就労率は回復傾向にはあるものの、支出の増加に追い付かず学生生活の困窮度合いは改善されていません。

当会では、経済支援により学生の方々に一人でも多く学業に専念いただけるよう、奨学事業を鋭意継続してまいります。

当財団は、基本財産および特定資産の運用による利金と配当金により運営しております。債券運用は長期に亘る市場の低金利状況が続く一方、株式は一定の配当金収入が見込まれます。配当金の増加により、これまで奨学生の数を着実に増やしてまいりました。本年度も収入の範囲内で出来る限り多くの奨学生を募っていく計画です。

新規事業計画の骨子である令和6年度の新規奨学生の採用予定数は30名を計画し、奨学生総数は81名を見込んでおります。今後とも資金背景をベースに奨学生の増加を図ってまいります。

大学別奨学生採用実績推移(HPホームページ上開示)の通り、新規の大学からの応募も増えており、本年度も全国広域に採用活動を行う予定です。

奨学金支給事業の補完事業である研修会は、令和6年度も遠隔地の奨学生にも参加を呼びかけ、東京(東日本地区)、大阪(西日本地区)の2か所で開催する予定です。

奨学学生並びに各大学の学生部との連携を密に行えるよう大学への訪問も引き続き実施し、情宣活動を行ってまいります。

## II 内容

### 1. 奨学生の計画数

合計 81 名の奨学生に奨学金を支給します。

摘 要	合 計	学 部 生	大 学 院 生	
			修士課程	博士課程
継続奨学生	51名	28名	18名	5名
新規奨学生	30名	20名	7名	3名
合 計	81名	48名	25名	8名

※ 支給月額 1 名当たり 30,000 円（学部生・大学院生共）

### 2. 奨学生指導の充実

#### （1）奨学生研修会の実施

昨年に引き続き奨学生の研修会を実施します。

遠隔地の奨学生にも参加を促し、新規採用奨学生と卒業予定奨学生の全員出席を目標に、大阪と東京で 11 月中旬に実施します。

財団と奨学生相互のコミュニケーションを深め、奨学生への教育を行います。

#### （2）奨学生との日常連絡の促進

従来から行っている電磁的通信（いわゆるメール）による連絡、及び奨学生の近況報告に対して激励文を発信するなど、奨学生とのコミュニケーションを図ります。

#### （3）大学訪問による連携の緊密化

奨学生所属の大学担当課訪問により、大学と当財団相互の連絡を密にし、併せて奨学生との懇談を行い、学生を励まし学生生活に活気を与える役割を果たします。2024 年度も新規採用学生の大学を中心に訪問計画します。

以上